



みんなで明るいあしたをつくらうよ

座談会

た一さん
(なちゆるら・ままだ代表)

中野和子
(碧いびわ湖 理事)



南村多津恵
(くうのるくらすの創造舎
・環境市民)

ななつ
(ナナイロつーしん発行人)

<3・11>原発事故。経験したことのない放射能汚染にお
びえる日々。県内でも、子育て中の母親を中心に、「あすのわ」
という集まりが生まれました。7/3 (日)、1,000人規模
のイベント「アースデイが」が開催されます。あすのわに
参加されている4人に集ってもらい座談会を行いました。

無力感で、泣いてた・・・

——原発事故が起きてどうしてました？

●た一さん>この3.11があってから(なちゆるら・ままだ)みんな、すごい落ち込んで、もう泣けて泣けて、テレビを見ては泣いてた・・・。なんにもできひん無力感というか、毎日そんなでした。

ちょうどその頃に『こどもの時間』の映画会(主催:草津おっぱいっこクラブ)があって、みんなが集まって、終わってからしゃべっていて、その時にななこさん(なちゆるら・ままだメンバー)が「やっぱ、なんかしようよ!」って言うてくれて。

あまりにも大きな出来事だから、自分がなに出来るか分からないし、どんな力があるか分からないけど。でも「自分たちもなんかしようよ」っていう勢いをななこさんがつけてくれた。そこから、みんなで「しよか〜!」ってなって、その時、会場にいた(暮らしを考える会の)藤本さんにも伝えたら「た一さん、しよ〜!」って応えてくれて。

あと「あすのわ」には、ずっと生協の活動をしてきて、小出裕章さん(京大原子炉実験所)を呼んで勉強会をされた人や、他にも平和のことや原発のことで活動をされてきた人たちも参加してくれています。そういう人たちを含め、その2、3日後だったかな、一回目の会議をして、急な呼びかけだったけど十数人が集まってきて。会議では、みんな、ひとりひとり自己紹介しながら、「今こんな気持ちでいる」っていうのをしゃべりました。

その時はみんな恐怖と不安ばかりだったけど、「このメンバーで、なにが出来るだろう?」っていう話しの時に、とにかく、ちょっ

と誰かに原発のことを話そうとすると「いや原発はCO2を出さへんからクリーンなのよ」とか、「原発は安あがりだから」とか、そういう決まり文句があるやんか。「温暖化対策になってる」とか、そういう反応が多いよねという話になって。でも、「それは、そうじゃないよ」というのを——毎日のように「原発はクリーンエネルギーです」とコマーシャルでやってるけど——「そうじゃないよ」ということが、ぱっと読んで簡単に分かるチラシがあったらいいなって、それを作ることにした。あわせて、みんなで集まる「あすのわ勉強会」をいろんなところでやってもらおうということにもなって。

まずは知らなくちゃね

●た一さん>原発のことをよく知らない人に、もっと知ってもらいたいから、例えば、茶楽さんや、朴さんのようなカフェや、おっぱいっこクラブとか、つながっているサークルで、勉強会をしてもらって。小出さんや田中優さん(未来バンク代表)の話(講演の映像)を聞いてもらったら、原発ってどういうものか分かりやすいし、知った上で、みんなで考えていかないと、「反対、反対」って言うていても、なかなか伝わらないしね。

——ななつさんは?

●ななつ>起こった時は、すごいもう手が毎日震えるっていうか。動悸がするっていうか、わなわなするという感じで、悲しかった。でも、地震のあった1週間後に『こどもの時間』の上映会を企画していたし、それをしなあかんという事と、自主保育を毎週2回、2カ所ですてるんですけど、それを回していかなあかんし。あと、毎日子どものご飯も作らなあか

んし、そういう毎日の事をしていかなあかんっていうので、「もうそれしか今は出来ん、手が震えるけど、どうにかそれをしていこう」という感じでした。地震が起こった直後は、で、その後は、なんか疲れてくるんですよ。「なんかもう聞きたくない」とか、「見たくない」とか。

アースデイという目標

●ななつ>でも、あすのわが出来て、盛り上がってきて、「ガーンと真ん中には、私まだよう行かん」と思ったけど、でもすごく助けになった。情報はいっぱいもらえるし、しかも、私が欲しい、信頼できる情報がいっぱいあって、た一さんとか、ななこさんとか、みなさんの気持ちもちゃんと受け止められたから。私一人で過ごしていたら、たぶんシャットアウトして、「もう遠い向こうのことや」という感じで、どっかに不安を残しつつも、そうしてたやろなと思う。だから「アースデイ」という目標をつくって、こうしてあすのわで、いろんな考え方や、温度差もあるような人たちとつながれて、「私はラッキーやったな」と思っています。

でも、今でも福島の話とか聞くと、「私にはどうにも出来ひん。もうこんな出来ひん事はお手上げだ」と思ってしまっただけ、みんなのちょっとした言葉で、「ここでごんばりましょう」とか、「ここ、こうしたらうまく行く」とか、そういう言葉をちょっとずつ拾いながら、「なんか出来る事をしていこう」という前向きな気持ちに、どうにかいまもつながれているという感じがしています。

こうしてみんなといると、みんなと話していると、「なんか目の前の事からしていかなあか



たーさん (玉崎洋子)

「あすのわ」の言いだしっぺのひとり。信楽にて仲間とともに自然育児サークル「なちゆるる・まま」を運営 (現代表)。4児の母。自宅にてパンも焼く。現在、セミ・セルフビルドの家づくりにもとりかかっている。音楽やアートも大好き。

んな」という気持ちになるし、モチベーションを保てるような気がしています。だから「ありがたいな」って。

あと、アースデイが成功するよう、新月のお願いに書いたから大丈夫だと思いますよ。(笑)

パソコンに釘づけ

●中野>私の3月11日はですね。そう、地震だったじゃないですか。地震分かりました？

●ななつ>分かりました。「めまいかな？」って思った。

●中野>そうそう。みんなそう言った。でも、私はちょうど車からでたところで、全然分からなくて。小学校に行ったら、子どもたちが「地震だ、地震だ」と騒いで、先生も「すごい揺れましたね」とか言っていて、「ああそうだったんや」と思って。それからどんどん時間がたって、家に帰って、テレビつけたら、すごいことになって、「あら〜」と思いながら、そのうち夜になって。

それで、夜ですね。「原発がおかしい…」って。11時何分だったかな、なんか文書が出たんですよ。夫がそれを見つけて、「11時何分に炉心が溶融します」と書いてあって、「え、今何時？」と聞いたら、もう12時半で、「もう溶けてるやん」って。そこからテレビに釘付けになりました。「どうする？どうする？逃げる？」って。あれが金曜日で、次の日に下の息子がともだちのうちに行って約束をしていたんだけど、夫が「行ったらあかん」と。「何かあったらすぐ逃げなあかんから」って。そこからうちは非常時で、1週間から2週間くらい、遊ぶ計画も全部なくなりましたよ。そこからは、ずっとパソコンに向っています。テレビじゃ大した情報がないですね。今でも、「なにか新しい情報はないか？」と思ってそうしています。あとは、中学校のPTA役員も頼まれたんですけど、「私いつ逃げるか分かんないから出来ない」と断りました(笑)。

●たーさん>逃げるセットとかしてあるんですか？

●中野>それが、してないんです。パスポートだけは取ったんだけど(笑)。

——では、南村さん

●南村>あのときは、仕事でした。ちょう

どあの日の午前中、職場のミーティングで、ここで今地震があったらどう対応するっていう話をしてたんです。そこに、ぐら〜と来たので、「さっき決めたとおりにみんな行動だ・・・」と。

●みな>すご〜い。

放射能とともに生きる

●南村>原発の最初の爆発があったときは、(碧いびわ湖の)村上さんと一緒にイベント会場にいたんですよ。「心配だね」という話をしたら、村上さんが携帯(ワンセグ)を見て、「爆発した！」っていうから、「え〜！！」って感じで、家にとんで帰って、とにかくパソコンでどうなってるんだって。うちテレビないんで、そこから何日間かパソコンにかじりつきですよ。ホントの事はどこにあるんだって。数日間パニックでした。

で、環境市民(NPO/京都)が結構動きが速かったんですよ。放射能についてどれだけ危険かとか、これからどんなふうに行動して下さいっていう情報をインターネットを通じてすぐに発信し始めたので、私も協力しようと思いました。

環境市民は今、週に一回特別番組でラジオを流しているんです。京都三条ラジオカフェというコミュニティラジオです。

その初期の番組に出演された細川弘明先生(京都精華大学教授)のお話の中に何度も「覚悟してください」という言葉が出てきたので、「ああ、これからは私たちがチェルノブイリを抱えて生きていくんだ」と思ったら、それであきらめがついたというか、腹が据わった感があるかな。それを抱えてこれからどう生きるか考えていけないといけないな、とってます。

それでも毎朝、目が覚める度に「夢だったら良かった」って思いますよね。

●みな>思う思う。ほんまやね。

みんなで観るってイイ

——勉強会で参加者の反応はどうでした？

●たーさん>一度信楽でやって、水口でもやって、今度またします。信楽の時は、お母さんたちが中心で、あとちょっと3人くらい私たちより一世代上のチェルノブイリの頃に活動してた人が来てくれました。

みんなでDVDを観て、その後に座談会みたいにとりひとりひとり自己紹介して、今自分が何を思ってるかしゃべった時に、ちょっと上の世代の人たちは、チェルノブイリの時にひと盛り上がりしてはって、「すごいがんばってやった」と。でも、「出来ひんかった」「何も変わらんかった」と言う諦めがあるのかな。今はもう静かにしてるって言う印象を受けました。その頃のことはよく知らないけど、(話しを聞いて)すごい盛り上がりたんやな、すごい活動やってんと思った。で、そこにグーッと行ってる人と、全然関心のない人とにわかれてしまった、という感じなんやなと思いました。

●ななつ>草津で「くじらはらっぱ」という自主保育のグループの主催だったから、参加者は子ども連れの人が多かったです。それと、「むすび」という子どもご飯を考えるお母さんの会もやってるんで、そのメンバーの人たちもたくさん来てくれて、子育て中の人が多かったです。あとは、原発について長年活動されているグループの方が来てくださって。あと、どっかでチラシを見たか、ネットを見たかで初めて出会うお母さんも何人来てくれました。DVDを観た後、感想などを言い合う座談会をやったんですけど、初めて来てくれたお母さんたちは、子ども連れでこういう勉強会をするって言うのが新鮮だったみたいで、「あっ出来るんですね」って感じで、「子どもがいて、観れるかどうか？」と思ってたけど、「ちゃんと観れました」って。小出さんのドキュメンタリー(DVD)と田中優さんの講演(DVD)の最後のほうだけを見たんだけど、「田中優さんがすごい良かったから、ぜひホン



中野和子 (なかの・かずこ)

碧いびわ湖・理事。カナダでの暮らし(9年)から、滋賀に移り住み10年余。2児の母。学校の図書ボランティアやおやこ劇場、ひこねで循環型社会を考える人のネットワークなどに参加。



ななつ (北岡七夏)

戦争や平和、環境、暮らしなどをテーマにしたフリーペーパー「ナナイロつーしん」発行人。3児の母。仲間とともに自主保育サークル「くじらはらっば」や「どんぐり団」、子どものご飯を考える会「むすび」などを運営。

くらの人の指向が変わったら品揃えを変えますか、という質問に対する答えです。

社会を変えるのは実はそれほど多くない少数者なんですよ。だから、「一歩先へ行く少数者の中に入ろうよ。そっちの方がカッコイイよ」みたいな感じで伝えるのもいいと思います。

「北京で一匹の蝶々がはばたくと、ニューヨークでハリケーンが生じる」という有名な話があります。あれも、はばたきを起こすチョウチョか、ハリケーンに吹き飛ばされる人か、「あなたは、どっちになりたいですか？」という、そういう風に問いかけられたらいいですよ。

一点でありつづけたい

——最後に、アースデイやその先にむけてどう考えてますか？

●ななつ>いま「7%」って言う話がでたんだけど、「それならなれるかも、私も、その中のどこか一点に」って、そう思いました。そんなにたくさんが変わらなくても、変わる瞬間が来るかもって思った。だから時々手をパーって離したくなるけど、あすのわみたいな緩いつながりの中で、その一点にずっとなっていたら良いなって思います。なんか出来るような気がする。変わるんちゃうかなって思いました。

●南村>この間、藤井絢子さん(菜の花プロジェクトネットワーク・代表/碧いびわ湖・監事)のチェルノブイリ報告会に行かしてもらって、やっぱりすごくカッコイイと思った。大きいものに頼らずに、自分の力で実践例を作っちゃうっていう。実践例を作ってしまったらもうそれは揺らぐことはないっていうか、事実こんなことができるんだって事が世に示せるんだから、そういう例をたくさん作る事をやっていかなあかんよなって感じました。

●たーさん>なるほど～

具体的な形をつくる

●南村>「エネルギーの使用量を減らさなきゃいけない」とか、「化石燃料や原発はいやだ」って言っても、じゃあそれに変わる具体的な答えを示さないといけない。それで、藤井さんは、実際の動きとして「菜の花プロジェクト」

モノを見たい」という反応もありました。あと、普段から知っているお母さんたちは、「いややな」とは思ってたけどそんなに詳しくは知らなくて。けど、見たら「なるほど～」みたいな。「こんなことに電力会社はなってたんか、よくわかった」って言ってきて、「なにしたらええかわからへんかったけど、知ることが大事やな」って言ってきて、「良かったな～勉強会して」と思いました。

あとは、「みんなで観るって良いな」って思った。一人で家で見てより、みんなで観ると、もっと深く理解できるような気がして、何回も見た映像やったけど同じところで笑ったり、深く心にはいるところはグッとまた入ってくるし。

それと、長年活動されてきた方々が、「平和堂とかジャスコとか行って、ちゃんと店長さんに、野菜なんか放射能ついてないか、測定をしているか、子どもには出来たらついてないのを選びたいって言うのを、お母さん何人かで言いに行った方が良いですよ」と話してくれました。それでまた、みんなやる気になって、「行きますわ～」みたいな(笑)。でも、やっぱりそういう声があると店長さんも上に上げやすいから、買う人が言いに行くのがいいんですよ。

自宅で勉強会

——中野さんはどうでした？

●中野>この間、安土で勉強会したじゃないですか。あそこに集ってた人は、はじめから意識のある人たちだから、これは違う人たちに「もっと広めなあ」と思って、勉強会セットを使って、自分の家で、ともだちをよんで見せようと思ったんだけど、よんだ時点で、「私はいいわ」みたいな・・、それを感じて、結構挫折してるんですよ。でも親友に相談したら、「じゃあ茶楽でやろう」って言ってきて、今度茶楽でやろうって思ってるんです。「行ってみたい」って言う人もぼちぼちいるんだけど、そういう人たちがすこしでも変わってくれたらええよね。

●ななつ>そう。なんかね、「入りたいけど、入れへん。どうやったらええんやろ？」みたいな人は多分いるんやと思う。そういう人を

拾いたいですよ。ちょっとボタンを押せば分かってくれる人が、多分いるんやと思う。そこをこっちもどうやって引っ張っていったらいいのか分からへんけど、そういう時に「アースデイ」があると、「これイイで！」と誘えるから、いいんだよ。

7%が社会を変える

——南村さんは？

●南村>私はあすのわの勉強会にはまだ参加できてないのですが、いい感じでされているみたいですよ。個人としては、依頼があれば出かけて行って原発やエネルギーの話をするようなことをさせてもらってます。

学習会には、「自分に具体的に何が出来るか」という事の情報が欲しいと思ってます。さっき言われてたみたいに「みんなでスーパーに提案に行きましょう」とか、「意見募集があったらみんなでまとめて送りましょう」とか、「とにかく隣の人に話しましょう」とかそういう具体的なことがあるといいと思います。

スーパーの話で言うと、環境市民では長年「グリーンコンシューマー活動」というのをやっています。環境に良いものを消費者が求めると、お店も変わるしメーカーも変わるしひいては社会が変わるっていう。

その中で、じゃあ消費者の内いったい何%の人が変わればお店が変わるか。

何%だと思えます？

●中野>10%

●ななつ>でも60%くらい行かないと。私が店長やったら・・ねえ(笑)。

●南村>それが、実は7%なんです。

●みな>ええ～。そうなん!?

●南村>実際に、スーパーのマーケティング担当の方にお聞きした話なんですけど、どれ



南村多津恵 (みなみむら・たずえ)

「くらのるくらすの創造舎」主宰、「環境市民」事業スタッフ。お金をかけず我慢もいらぬエコな「楽貧生活」を提案実践中。環境学習や市民活動支援、会議ファシリテーションなどに取り組む。ゆるベジを楽しむ自転車のり。

をされてきたんですね。いやだとか文句を言ってるだけじゃなくて、「自分たちはこうやるんだ。できるんだ」という具体的な形を作ってしまうっていうのをやっていきたいですね。そういう意味で、以前に碧いびわ湖と暮らしを考える会の共催で勉強会をされた「市民共同発電所」、あれなんかまさにアースデイが終わった後でできたらいいと思います。

●ななつ>知人が「障がいをもっている人たちの作業所とかでも、仕事として発電というのもありなんか」って言ってたんですけど、どうなんですかね？「石部にはあるみたいですよ」と伝えておきました。

●中野>だから、電力会社がその電気を高く買ってくれたらいいのよね？

●ななつ>そう。あと、田中優さんも言ってたけど、送電線を国有化できたら。そうしたら、いろんなところで発電所つくって、ばんばん売れるようになりますよね。

楽しいが持ち味

——やっぱりそういう形を作っていくのが大事ですね。では、最後にたーさんから。なちゅらる・ままの持ち味は、楽しいことをしよう、楽しみながらしよう、という辺りですかね。自分たちではどう思っていますか？

●たーさん>特別に「楽しまなあかん」みたいなことは思ってなくて。でも、思いつくことは、「自分が楽しいことしか思いつかん」っていうことが多いかな。例えば、「かわいいTシャツ作るんやったらよろか」とか。

●ななつ>私とか、そんなやな(笑)。

●たーさん>それと、あすのわでは、いろんな人がいて、一人一人の気持ちを聞いてみると、同じものを見てても、みんな全然違う感じ方か思いを持っていて、それがすごく新鮮。みんな自分の人生の経験の中で見てて、それがすごくおもしろいなと感じてる。で、自分も、人になにかをしゃべるっていうことで、自分の気持ちをもう一回整理して見つめる機会にもなってるし。

勉強会とかは、難しいことではあるんやけど、みんな楽しんで企画してるし、有意義だよなって感じでやってるかな。

私ら(なちゅらる・まま)、いままでずっと信



楽で「遊びで暮らしてた」というか(笑)、そのことの延長にいまもあるのかなとは思いますが、その自分たちの狭いなかでやってたのが、今回のことで、一気にいっぱい広がって、それがすごく嬉しい。

あすのわでは、いろんなネットワークの人とつながって楽しいし、日に日に、あすのわが広がってきてる。

言いだしっぺは自分たちでちっぽけやけど、気付いたらすごい能力ある人がいっぱいいて、メール見ても「すごい、すごい」って。むしろ「ついていけへん〜」って言いながらやってる感じかな。

●ななつ>そうそう。「あのたーさんがパソコンはじめた!？」ってみんな驚いてるしな(笑)。

ごろっと変わる

●たーさん>アースデイをきっかけにして、「とりあえずアースデイやる」っていう事で、みんなで必死に協賛を集めたり、となりの人にしゃべるとか、お店に話しに行くとか、っているんるところで一人が二人、三人、四人って広がってきてる。さらに、それが100人になって、200人になって、1000人になるって言う、それをリアルに今実感してる。アースデイでは、鎌仲監督(映画「ミツバチの羽音と地球の回転」)とか田中優さんの話を聞いて、すごい感動すると思うし、みんな腑に落ちるっていうか、「そうやな」って思った人がいっぱい集まって、またその次に大きな

流れになって、さらになにか形に、南村さんが言っていたみたいに「なにか新しいことを具体的に滋賀から形にしていく」っていうことになっていったらいいなと思ってる。

あとは、無関心というか、普通に生活してる人に伝えるのが一番大変だよな。

●みな>そうやね。

●たーさん>そういう人にホンマに伝えるのって、勉強会やっても来てくれへんし、なかなか地道な活動では伝えきれへん。そういうときにアースデイみたいなおしゃれでカッコイイ、楽しい「ムーブメント」っていうんかな。そういうことで来てくれて、なんか持って返してもらえたらいいよね。

アースデイにはその辺を期待してる。

●ななつ>しかも、7%やから。「やれる」と思ったわ、私。ごろっと変わるかも。

●南村>無関心な人たちは周りが変わったらついてくる人たちですよな。

●中野>そう、だからその人たちを無理に変えようとしなくても良いわけだよな。

●ななつ>そうそう。

●たーさん>そうやんな、「あすのわ」が力を持っていったらいいやんな。

——今日は、7%の話がヒットでしたね。7・3の「アースデイ」と、「あすのわ」のこれからが楽しみです。

みなさん、ありがとうございました。

(構成・編集：なかの・ねぎやま・むらかみ)

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

碧いびわ湖・情報紙「あまいろだより」(第7号/別冊)

発行：特定非営利活動法人 碧いびわ湖

2011年6月20日

アースデイ*びわ湖 Earth Day Shiga

わたしたちの 地球の 明日のため みんなで まあるく 手をつなごう

73

とこ 2011年 7月 3日(日) am10:00~

とこ 栗東芸術文化会館 さくら

〒520-3031 滋賀県栗東市権二丁目1番28号

大ホール入場料

前売券 1000円

当日券 1200円